

後志濃所天正寺小湊菅原寺小湊を江所  
 能後所是なり能後所の中江東の方へ少  
 入て上山王あり東禪寺の山王といふ細看  
 河堀際より西の方を一の丁と一七の丁近  
 連なり是を以て考れば佐正の江吾屋村の  
 南より新治川東の東とを東禪寺といふ  
 地名なりと云限る（さ事とはあゝさるふ  
 や東禪寺の何く皆東禪寺といふ地名  
 なりや三代実録より出羽郡二城あり河  
 国大梵寺二城と見へり兼經紀より河国

の名あり、又續左馬記二十九巻奥羽關の  
 條下に、宮上源理方、吏部卿將軍義政公へ加  
 幣此爲に假され、こゝに羽の幣此中に大梵  
 寺酒田とあり、榎東禪寺の号は、て正十三年  
 の安中理全戦の時、本庄城を重長は討れ  
 こゝに東禪寺石馬を始とに、吏公以前の由に  
 東禪寺の号を見なす。酒田は川も、南に  
 あり、一車は、土人も能志、而之、嘉祥年中  
 國司の長城を川も、水は、後、こゝに酒田  
 の所、家も大方、川水は、後、今、の鶴屋、安田